

宇治市学校規模適正化検討懇話会「中間答申」に対する
パブリックコメント要旨と懇話会の考え方

	意見等	意見の要旨	懇話会の考え方
<p>教育の現状と新しいシステム（小中一貫教育）に対する意見</p>	<p>小中一貫教育は9年間で、きめ細かく学力を充実させ発達段階に沿った教育ができる。</p> <p>子どもたち一人一人の育ちを小中9年間の長いスパンで見つめ、より確かな学力と豊かな人間性を育てていくことは宇治市が進めるべき「新しい教育」として価値がある。</p> <p>小中一貫教育の利点としては、中学進学時の子どもたちの心理的不安を軽減する</p> <p>教職員の意識改革 9年間を見通した計画的・継続的な教科指導や生徒指導が展開でき、豊かな人間性の育成・確かな学力の向上につながる。</p> <p>義務教育9年間を有効に活用して、子どもたちがゆとりをもって、しっかりと学ぶことができる学校づくりを進めていただきたい。</p> <p>個性の伸長、表現力の育成、確かな学力の定着を目指すには、現行の6・3制という独立した完結型指導では問題がある。</p> <p>小中学校の教育課程を整理して無駄を省き、体験学習や基礎基本の定着の時間を生み出していきたい。</p> <p>今の小中学校の教育は卒業をゴールとして見ており、6年間、3年間だけの責任を持っているのが現状である。</p> <p>5年生から教科担任制、8、9年では進路を見据えた教育が可能なのではないか。</p> <p>義務教育9年間を見通した教育ができていないため公立中学校を避ける保護者がいる。</p>	<p>6年間、3年間だけの責任を持っているといった感じの現在の学校と比べ、小中一貫教育や「小中一貫校」は、9年間の長いスパンで発達段階を踏まえた、豊かな人間性、個性の伸長や確かな学力の定着を図る教育が実施できる。</p>	<p>学校が抱える諸課題を解決するとともに、学校教育に対する保護者や市民の方々の様々な願いや要望に応じていくことが求められています。</p> <p>そのためには、「小中一貫校」と「強固な小中ユニット(小中一貫教育校)」という新しい教育システムを導入して、義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、系統的・継続的な教育活動を進め、子どもたちに確かな学力を身に付けさせることができる学校、少子化の中にあって年齢差のある集団による多様な活動を通して、人を思いやる心や尊敬の心など豊かな人間性や社会性をはぐくむことができる学校、地域コミュニティのセンターとしての役割を担う学校を、宇治市に設置していくことが大切だと考えました。</p> <p>答申 P22～P25 「(3)新しい教育システムの構築」</p>

<p>教育の現状と新しいシステム（小中一貫教育）に対する意見</p>	<p>小中一貫教育・小中一貫校</p> <p>児童生徒間の交流は新しい人間関係を生み、尊敬や思いやりが芽生えてくる、さらに母校愛・郷土愛もはぐくむことが期待できる。</p> <p>年齢差のある子どもたちが、ひとつの学校の中で各行事などでふれあうことができ、豊かな人間性をはぐくんでいける。</p> <p>最近の中学校はあまり荒れていないと聞くので、この期に小学生と中学生がともに学習し、お互いを思いやる心をはぐくんでいって欲しい。</p> <p>小学校から中学校への進学時に子どもにはすごい緊張感が生まれ、ストレスとなり不登校になる子どもさえいると聞き、小中一貫校がこうした問題の解決策になるのではないかと期待している。</p> <p>自分の経験から中学入学時にやる気をなくしたり、不登校になった友人がいたので、小学校と中学校の段差はあると感じる。</p>	<p>小学校1年生から中学校3年生までが一つの学校で学ぶことにより、児童生徒間の新しい人間関係、尊敬や互いを思いやる心など豊かな人間性をはぐくんでいける。</p>	<p>「小中一貫校」においては、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒が同じ学校で生活することにより、教科の学習、学校行事や特別活動、クラブ活動や部活動をはじめ、多様な日常交流など、今までにないダイナミックな活動を計画することができます。こうした交流を通して、ご意見の通り、児童生徒間の新しい人間関係、尊敬や互いを思いやる心など豊かな人間性や社会性をはぐくむことが期待できると考えています。</p> <p>答申 P 2 2 2 2行目～2 3行目</p>
------------------------------------	--	---	---

<p>教育の現状と新しいシステム（小中一貫教育）に対する意見</p>	<p>小中一貫教育・小中一貫校</p> <p>9年間の長さは子どもにとってメリハリがつけられるのか。</p> <p>異年齢の大きい集団の指導は難しいと感じる。</p> <p>中学生になったという喜びや希望を自覚させることが重要である。</p> <p>「小中一貫校」では、小学校の卒業式や中学校の入学式はあるのでしょうか。</p> <p>小学校1年生と中学校3年生が一緒だと、小学校1年生は威圧感を感じる。</p> <p>中学校進学時に戸惑いはないと感じる。</p> <p>9年間同じ学校であれば、不適應の子どもへの負担が大きい。</p>	<p>子どもにとってもメリハリや、中学生になったという喜びや希望などを自覚させることが大切だと思うが、「小中一貫校」では、小学校の卒業式や中学校の入学式はあるのでしょうか。</p> <p>小学校1年生と中学校3年生が一緒の学校だと、1年生が威圧感を感じるのではないか。</p> <p>中学校進学時に戸惑いはないと感じる。</p> <p>9年間同じ学校であれば、不適應の子どもへの負担が大きいのではないか。</p>	<p>教育課程や教育内容の課題については、今後、具体化する段階で、市教委や学校が充分検討すべきものだと考えます。</p> <p>日常的な交流と教室配置等の工夫により解決できると考えています。</p> <p>答申 P 2 5 2 行目～8 行目</p> <p>勉強離れや学習意欲の低下が、小学校と中学校の間で顕著になる状況が宇治市でもあります。</p> <p>答申 P 1 0 < 図 1・2 ></p> <p>宇治市でも問題行動や不登校の件数が小6から中1に上がる過程で大きく増加している状況があります。小中の間の段差が、児童生徒の負担を大きくしているのではと考えます。</p> <p>答申 P 1 0 < 図 3・4 ></p>
------------------------------------	--	--	---

教育の現状と新しいシステム（小中一貫教育）に対する意見	小中一貫教育・小中一貫校	<p>一地域だけに小中一貫校を建設するのは、公教育を考えると問題がある。</p>	<p>一地域だけに小中一貫校を建設するのは、公教育を考えると問題があるのではないか。</p>	<p>すべての地域の学校規模の適正化と再編整備の方向については「小中一貫校」設置と「強固な小中ユニット（小中一貫教育校）」による対応が求められると考えています。</p> <p>答申 P 3 3 下から 5 行目～</p> <p>本答申の骨格は、将来的に宇治市の学校を「小中一貫教育」をもって大きく再編することを内容としています。</p> <p>答申 P 3 4 下から 7 行目～ 下から 3 行目</p>
	<p>「強固な小中ユニット」に期待する。</p> <p>早期の英語教育の導入を望む。</p> <p>小中一貫教育は宇治市の新しい取組として賛成です。</p> <p>小中ユニットは学校運営を展開する構造改革と受け取る。</p> <p>小中一貫校構想が実現することにより、改革が停滞している宇治市の教育の起爆剤になることを期待します。</p> <p>市内すべて小中一貫校にし、校区の完全自由化を望みます。</p> <p>私立でやっているのに公立でやっていないのが不思議なくらいです。</p> <p>小中高一貫の学校があればと思います。</p> <p>新しい環境が人の成長を促進させるということも踏まえて小中一貫教育を推進して欲しい。</p>	<p>「小中一貫校」や「強固な小中ユニット（小中一貫教育校）」に期待する。</p>	<p>学校適正規模や適正配置についての論議を進めるにあたって、単なる数合わせではなく、一般的に指摘されているような公立学校の画一化や硬直化を大胆に変革していかなければならないと考えました。</p> <p>そのためには、小中一貫教育をスタンスとする学校規模の適正化と適正配置を進めていく必要があると考えるに至りました。</p> <p>答申 P 2 2 1 8 行目～ 2 7 行目</p>	

教育の現状と新しいシステム（小中一貫教育）に対する意見	小中一貫教育・小中一貫校	<p>小中学校の区分を5 - 4制として試行する、学校モデル研究指定についても検討していただきたい。</p> <p>空き教室を多く抱えている中学校を活用し、小学校6年生を中学校に入れ、小中学校の接続(小中一貫校)のあり方の研究を行う。</p> <p>小学校6年生を受け入れ可能な中学校と小学校をセットでモデル研究指定し、小学校の良さである学級担任制に中学校の教科担任制を加えたカリキュラム研究を行い、小中一貫校設置ビジョンに活かす。</p> <p>小学校の理科や算数の授業は貧弱だから、専門の教師が教える必要がある。</p>	<p>「小中一貫教育」を進めるための先行的な研究を進めて欲しい。</p>	<p>「小中一貫校」や「強固な小中ユニット(小中一貫教育校)」の教育内容やその研究の進め方は、今後、具体化する段階で、市教委や学校が検討すべきものだと考えます。</p>
	<p>中間答申に「小中一貫教育」のデメリットが書かれていないのはおかしい。</p>	<p>中間答申に「小中一貫教育」のデメリットが書かれていないのはおかしい。</p>	<p>新しい教育システムなので、先進地での実施状況も踏まえ、今後より一層の研究が望まれますが、今日の教育課題を解決するためには有効なシステムだと考えています。</p>	

<p>適正規模について 小中学校の適正規模適正配置に対する意見</p>	<p>子どもの数が減っているのに宇治市の学校数は多すぎる。</p> <p>校区変更、学校統合は避けて通れない問題だ。</p> <p>以前から小学校規模の不均衡が気になっていた。</p> <p>一部の学校を除き子どもの数が少なくなりすぎ、統廃合を行って活気のある学校にしていきたい。</p> <p>1学年3学級が理想だと思う、児童数の学校間格差は2倍以内に。</p> <p>自分の経験上18学級プラス障害児学級が適正規模だ。</p> <p>私の息子は西小倉小学校に通っているが、2クラスなのでクラス替えの効果が薄く感じる。</p> <p>適正規模の基準を18学級とするのは適当。</p> <p>過大規模校も問題があるので適正に調整して欲しい。</p> <p>クラス数が多いと予備教室がなくなったり、仮設校舎を使用する期間が長くなる。</p> <p>児童生徒数が2倍以上あるのは平等性が損なわれる。</p> <p>18学級で過大規模校にならないという適正規模は大きすぎる。</p> <p>適正規模が18学級というのは教育的見地から検証されていない。</p> <p>40人学級でも各学年のクラス数は少ないのがいいのは常識である。</p>	<p>18学級で過大規模校にならないという適正規模は大きすぎる。</p> <p>過大規模校は問題があるので、適正に調整して欲しい。</p> <p>「子どもの数が少なくなりすぎて活気が無くなっている。」 「2クラスなのでクラス替えの効果が薄く感じる。」など小規模校には課題がある。</p> <p>経験上、クラス替えの効果がある学年3学級(6学年で18学級)の規模が適当だと思う。</p>	<p>適正規模については、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 法制面からの考え方 (2) 他の自治体で考えられている適正規模 (3) 小規模化及び過大規模化の問題点の考察 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の指導に関わる問題点 ・児童生徒の集団に関する問題点 ・授業展開に伴う問題点 ・具体的な集団活動に関する問題点 ・教員と児童生徒の人間関係に関する問題点 ・教員数の減少による指導上の問題点 学校運営・組織に関する問題点 <p>以上の点について考察を行い、先の「宇治市学校規模適正化検討委員会」の「検討のまとめ」で指摘されているように、「本市における学校の適正規模は、小中学校とも18学級を適正規模の基準としつつ、18学級以上でかつ過大規模校にならない規模とする。」という見解を尊重することにしました。</p> <p>答申 P12～P16</p>
---	---	--	--

<p>小中学校の適正規模適正配置に対する意見</p>	<p>適正配置について</p> <p>地域コミュニティと中学校区が一致するのが理想だが、それが無理なら小学校の進学先の中学校は同じにしてもらえれば小中の連携がとりやすい。</p> <p>小中学校を核に地域コミュニティを形成することは賛成です。</p> <p>地域コミュニティと通学区域を一致させれば、地域に対する愛着も増すと感じます。</p> <p>学校が地域とのかかわりやコミュニティの拠点としての役割を担う可能性も大きい。</p> <p>校区変更の場合、通学距離は現状の2倍以内とする。</p> <p>校区変更はやむを得ないが、在学中に1回以内とする。</p> <p>現状のコミュニティに固執せず、子どもに有益かどうかの点が重要である。</p>	<p>学校の適正配置については、地域コミュニティと通学区域を一致させることによって、地域に対する愛着が増すと思う。</p> <p>通学距離の問題についてはどう考えているのか。</p>	<p>近接して小規模校が存在する地域については、統合も視野に入れる必要がありますが、その際、自治会町内会等の地域との関係を十分に考慮することや、まちづくりの中心施設となるような新しい学校づくりが望まれます。</p> <p>答申 P 8 「イ コミュニティとの不一致」とP 2 1 ア</p> <p>通学区域の考え方については、</p> <p>(1)学校選択の自由化 自由化は、先進地の動向や保護者市民ニーズも見定め、今後研究されるべき課題であること。</p> <p>(2)法制面からみた通学区域と通学距離 法制面からみた通学距離は小学校4 km以内、中学校6 km以内と定められていること。</p> <p>(3)通学区域調整の基本方向 安全・時間や学校の許容能力や地域実態を考慮に入れ、慎重な検討・最善の努力をすること。 と考えています。</p> <p>答申 P 1 7 ~ P 1 8</p>
<p>小中ユニットによる再編</p>	<p>小学校から進学する中学校が1つになるように校区変更を含めて検討することは喫緊の問題である。</p> <p>分散進学是正は賛成。</p>	<p>現在の小学校から中学校への分散進学は是正の考え方は重要です。</p>	<p>小学校卒業後の進学先が複数の中学校に分かれることは、小中学校の指導の連携等に困難さが生じる。こうしたことを可能な限り避け、宇治市立小中学校を「小中ユニット」という考え方で再編を行うことが望ましいと考えています。</p> <p>答申 P 8 ア 「分散進学」 答申 P 2 1 エ</p>
<p>適正施設</p>	<p>京都市の学校を見ているとうらやましい。</p>	<p>小中一貫校に相応しい施設を作ってください。</p>	<p>全く新しいシステムによる教育を実施する学校ですから、その教育効果を上げるための施設が必要だと考えます。</p> <p>答申 P 1 9 (ア) 「これからの学校施設の目指すべき方向」</p>

<p>各地域の適正規模・適正配置についての意見</p>	<p>西小倉地区</p>	<p>西小倉に住む者として小学校3校が統合されても違和感はありません。むしろ3つが一体となって地域全体が発展していくことを住民は望んでいると思う。</p> <p>西小倉地区では学校の統合も考えられているらしいが、通学区域を変更してどの学校に通っていても同様の教育環境で学ばせてやって欲しい。</p> <p>近隣の学校と格差がついてしまう。</p> <p>3小学校を適正規模にしていくという点は納得できるが、4つの学校をまとめるのは反対。</p> <p>1500人42クラスの小中学校が適正規模か疑問です。</p> <p>適正規模と西小倉の一貫校は矛盾する。</p> <p>統合しなくても小中の連携は深められる。</p> <p>小規模校の方が教育的利点が大きく、大規模校を設置する意味が分からない</p> <p>災害時に避難施設として役割が担えるか疑問である。</p> <p>通学距離が伸びて、児童の安全面で不安である。</p> <p>南宇治地域が小中ユニットでOKであれば、西小倉地区も南小倉小を廃校にして1中2小のユニットにすればいい。</p>	<p>小中一貫校の近隣の学校や他の地域と格差がつかないか。</p> <p>小中一貫校の規模が大きく適正規模か疑問です。</p> <p>小規模校の方が利点が大きく、大規模校を設置する意味が分からない。</p> <p>災害時に避難施設として役割が担えるのか疑問です。</p>	<p>前述</p> <p>答申 P 3 3 下から5行目～</p> <p>答申 P 3 4 下から7行目～下から3行目</p> <p>西小倉地区の「小中一貫校」の規模については、最大で「小学校28学級、中学校14学級」と予想されています。この規模は、懇話会が考える適正規模の範囲内で、過大規模校とはなりません。また、「小中一貫校」の設置による教育効果を上げるために、「6-3学制の区切りではなく4-3-2学制などの区切りで効果的な指導を実施する」ことで市民保護者の方々の信頼に十分応えることができると考えています。</p> <p>答申 P 3 2 6行目(オ)</p> <p>学校の規模についての考え方(答申 P 1 2 ~ 1 6)は、先に記載済みですが、西小倉地区の3小学校とも、今後も300人、各学年2学級程度の規模が続くと予想されます。同じく西小倉中学校も、300人程度で各学年3学級程度となります。</p> <p>また、北小倉小学校だけが、コミュニティ外の中学校へ進学している状況があります。こうしたことを踏まえ、この地区の学校規模の適正化を図るとともに、保護者や地域の方々の期待に応える新しい教育システムである「小中一貫校」による地域コミュニティの核となる学校をつくる必要があると考えます。</p> <p>「小中一貫校」においても、当然、災害時の避難施設としての機能を確保することは大切なことだと考えています。</p>
-----------------------------	--------------	---	---	---

各地域の適正規模・適正配置についての意見	東宇治地域	<p>東宇治地域は、今でも中学校の生数徒が多いため、校区変更しても限界がある。</p> <p>私の子どもは御蔵山小に通っているが、児童数の増加で教室が足りない状況だが、隣接する木幡小は小規模のままである。</p> <p>木幡中の生徒数を減らす手立てをお願いしたい。</p> <p>東宇治地域の具体的な適正化案を出して欲しい。</p> <p>東宇治地域の中学校新設に賛成。</p>	<p>東宇治地域における小学校の児童数のアンバランスや中学校の大規模化の解消のための具体的な案を出して欲しい。</p>	<p>この地域の課題は、隣接小学校の規模のアンバランスや、二つの中学校の規模がともに大きいことです。</p> <p>これらの解決を図るため、新たに中学校を設置することの検討も含めて「小中ユニット」による再編整備を基本に検討を進め、西小倉地区での成果検証を踏まえた「小中一貫校」の設置と小学校の通学区域の再編による「強固な小中ユニット」の検討を求めました。</p> <p>答申 P 3 1 ア「東宇治地域」</p>
	西宇治地域	無し		
	南宇治地域	無し		
	北宇治地域	<p>北小倉小を西小倉中校区にすれば、北宇治中が小規模校になる。</p>	<p>北小倉小を西小倉中校区にすれば、北宇治中が小規模校になるのではないか。</p>	<p>この地域の課題は、ご意見に加え、小倉、槇島両小学校の分散進学の実状もあります。こうした課題解決のためには、隣接地域を含めて再編整備の検討を行う必要があると考えます。</p> <p>答申 P 3 3 エ「北宇治地域」</p>
	中宇治地域	無し		

<p>その他の意見</p> <p>パブリックコメントの実施や今後の手続き等</p>	<p>最終答申前に市民に意見を求めたことは評価する。意見等は最終答申と同時に公表して欲しい。</p> <p>市内の保育所、幼稚園、小中学校に中間答申を設置しないのは保護者からの意見を閉ざそうとするものだ。</p> <p>小中一貫校の話が出てきた経過、教育的理由を説明して欲しい。</p> <p>中間答申にコメントできる機会があるのはいいが、口頭による説明会、質問ができる機会を持って欲しいし、市民に徹底して説明し納得のいくやり方をして欲しい。</p> <p>性急な改革ではなく各分野の意見を聞き、意見交流の場を設けること。</p> <p>校区内の保護者（子どもを含む）や学校教職員の意見や質問を聞く場を設けて欲しい。</p> <p>意見や質問を提出する期間が短いので延長または再度設定して欲しい。</p> <p>懇話会で一貫校の方針を出すのは市民を欺くものだ。</p> <p>統廃合に絞った狭い論議である。</p> <p>当該児童生徒や父母、校区住民の実情や心情を汲み取った広い立場の答申にして欲しい。</p>	<p>最終答申前に市民に意見を求めたことは良いことだ。今後口頭による説明会、質問ができる機会を持って欲しいし、市民に徹底して説明し納得のいく進め方をして欲しい。</p> <p>小中一貫校の話が出てきた経過、教育的理由を説明してほしい。</p>	<p>市教委にあっては、今後、徹底した情報の公開を行い、それに基づいた保護者、地域住民の方々との情報の共有と参加を前提として、具体的な検討がなされるよう指摘しています。</p> <p>答申 P 3 5 1 0 行目～1 2 行目</p> <p>教育的な見地から「小中一貫校」が必要だと考えています。</p> <p>その理由は、子どもの「問題行動」や学力向上に関する課題解決のために、小学校6年間、中学校3年間という学校教育システムそのものを見直しが必要である(答申P 9～11、P 22～25)と考えています。</p> <p>また、現在、宇治市立小中学校の施設がかかえる課題や、地方分権化の進捗により宇治市独自の学校教育のシステム設計が可能となり、また必要となっていることなども考えました。</p> <p>特に、目前の「課題解決」を図るだけではなく、より中長期的な展望に立った市民の要望に応える宇治市の学校改革が必要だと考えています。</p> <p>宇治市はこれまで「小中ユニット」の試みを進めてきており、大きな成果を生み出してきています。この成果を踏まえ、子どもも、保護者も、地域住民も、そして学校の教職員も満足し、誇れる学校教育を実現できる新たなシステムの構築に結びつけていきたいと考えています。</p> <p>答申 P 3 4～P 3 5</p>
---	---	---	--

その他の意見	メンバー	<p>中間答申時に懇話会メンバーがなぜ公表されないのか。</p> <p>懇話会メンバー、選出方法、公募の有無を公表するべし。</p> <p>答申に現場の教師の声が欲しい。</p> <p>懇話会委員の構成に地域的に偏りがあり地域の実情が反映されにくい。</p> <p>懇話会委員だけで答申を出す姿勢に疑問を持つ。</p>	<p>メンバーの公表を望む。</p> <p>現場の教師の声が欲しい。</p> <p>懇話会委員の構成に地域的に偏りがあるのではないか。</p>	<p>懇話会委員については、懇話会設置時に、すでに公表しています。</p> <p>また、学校現場の校長先生や教頭先生も委員にお願いし、学校現場の様子や課題についても報告などをいただき、協議を進めてきました。</p> <p>加えて、先の「宇治市学校規模適正化検討委員会」の「検討のまとめ」を受け、課題のある地域から委員の選出をお願いし、検討を進めてきました。</p> <p>答申 P37「委員名簿」</p>
	少人数学級	<p>1クラスの人数を30人以下にすることが「学級崩壊」や「荒れ」を解決する方法だ。</p> <p>20名強の学級集団が望ましいというのが、大方の親、教員の考え方だ。</p> <p>現在小学校でも少人数授業をやっており、まず少人数学級を行うべきだ。</p> <p>小中一貫教育より少人数学級や先生の増員や仕事量を減らすことが重要だ。</p> <p>全国的には35人学級が実施されているところもあり、展望を含めた提言をしていただきたい。</p> <p>1学級の人数が25人未満というのはあまりにも少ない。</p>	<p>まず少人数学級を実施することを望む。</p>	<p>少人数学級については、懇話会では論議の前提条件としては含まず、あくまで現行法制度の下において検討を進めてきました。</p> <p>答申 P12 ア「適正規模」</p>

<p>その他の意見</p>	<p>その他</p>	<p>準備を十分にして市を挙げて取り組んで欲しい。</p> <p>京都市に比べて改革が遅れている京都府の教育の進展にもパイオニア的改革として貢献できる。</p> <p>親が親としての役割が果たせていない時代に今の教育システムでは限界がある</p> <p>子どもの視線に立った改革がなされるべきであり、子どもにとって是か否かを忘れないようにして欲しい。</p> <p>今問題となっている、学力低下や友達関係の希薄さについて教育委員会として積極的な施策をお願いしたい。</p> <p>市の他の部局との協議はしたのか、それとも必要なしと判断したのか。</p> <p>適正施設を言う前に現状を確認し早急な修理等をしてもらいたい。</p> <p>小学校の統合をスムーズに受け入れさせるためのアドバルーンとを感じる。</p>	<p>準備を十分にして市を挙げて取り組んで欲しい。</p> <p>京都府の教育の進展にもパイオニア的改革として貢献できる。</p> <p>親が親としての役割が担えていない時代に今の教育システムでは限界がある</p> <p>子どもの視線に立った改革がなされるべきであり、子どもにとって是か否かを忘れないようにして欲しい。</p> <p>今問題となっている、学力低下や友達関係の希薄さについて教育委員会として積極的な施策をお願いしたい。</p> <p>市の他の部局との協議はしたのか、それとも必要なしと判断したのか。</p>	<p>ご意見の通り、この「答申」を踏まえ、宇治市の学校教育の改革に積極的に取り組まれるよう市教委に強く望みます。</p>
---------------	------------	--	--	--

<p>その他の意見</p>	<p>その他</p>	<p>公共団体であっても民間と同様の経営努力をして下さい。</p> <p>行政も無駄をなくし、市民とコミュニケーションをとることによって、サービスをする側される側といった一方通行の連携から、お互いが協力連携することが可能になってくる。</p> <p>地方自治体も財政状況が悪い中、新しい学校を建てるには小規模の学校を統合していくべきと考えがちで、通学距離が遠くなるため、安全に不安があるという保護者がいるのは仕方がないことだと思いますが、今の学校数で新しい学校を建てれば宇治市の財政を圧迫し、福祉等の施策が手薄になっていくと思われます。</p> <p>税金を有効に使ってください。</p> <p>300人2校のコストは600人1校のコストを上回る。</p> <p>今後益々財政的に厳しい時代を迎え、今までの常識を変革しアイデアを生み出していくことが大切。</p>	<p>300人2校のコストは600人1校のコストを上回することは明らかであり、公共団体であっても民間と同様の経営努力をして下さい。</p> <p>今後益々財政的に厳しい時代を迎え、今までの常識を変革しアイデアを生み出していくことが大切だと思う。</p>	<p>学校規模の適正化や適正配置の在り方の論議を進めるにあたっては、宇治市の厳しい財政事情があるにせよ、単なるコスト論ではなく、あくまでも変化の激しいこれからの社会をたくましく生きぬく子どもの育成をめざし、子どもたちの確かな学力や豊かな心、体力などの「生きる力」を育てるための宇治市教育の展開を願って協議を進めてきました。</p>
---------------	------------	---	--	---

<p>その他の意見</p>	<p>その他</p>	<p>優秀な先生方により、安心して通える学校を造って欲しい。</p> <p>学校が少なくなれば教師の数も少なくなるが、児童生徒とトラブルばかり起こす教師には辞めてもらったらいい。</p> <p>高年齢の教師が多く学校に活気がないように思えて、年齢構成も考えて欲しい。</p> <p>小学校高学年の担任のなり手が少ないと聞くが、そんな教師は辞めてもらう。</p> <p>小中一貫教育を実践したいと思う教師を重点配置して実践すべきだ。</p> <p>小中連携が重要視されているが、現状では小学校の高学年の連携も十分でない。</p>	<p>現在の学校の教師の指導力量に課題がある。また、小中一貫教育を実践したいと思う教師を重点配置して実践して欲しい。</p>	<p>子どもたちに確かな学力や豊かな心、体力など「生きる力」を育てるには、教員一人一人の指導力や人間性など教員の資質が大変大きな要素であることは言うまでもありません。</p> <p>市教委は、いただいた意見を真摯に受け止め、その責任において指導や方策の検討等を実施されるよう望みます。</p>
		<p>笠取小、笠取第二小も、大幅な児童増が見込めなければ、統廃合も検討すべき。</p> <p>大久保小の児童1人あたりの校地は狭く、広げるべきである。</p> <p>男女平等教育を答申に挿入して欲しい。</p> <p>現在の学校開放事業をどのように保証継続するのか。</p> <p>30人学級と開発・マンション問題を避けた答申は、教育現場の課題や市政のあり方に目を閉じた恣意的なものが働いていると受け止めざるを得ない。</p>		